

糖質科学で未来を創る

私たちは創立70年を超える製薬会社です。

創薬分野において多くの可能性を秘めた「糖質科学」のパイオニアとして、独創的な医薬品・医療機器を生み出しています。

世界中の患者の方々の健康で心豊かな生活の質の向上に貢献し、豊かな未来を創造する企業。それが、私たち生化学工業です。

Our Strengths 競争力の源泉

生化学工業は研究開発や製造に特化したユニークなビジネスモデルを構築し、独自の技術力を活かした高品質な医薬品や医療機器の開発・供給を通じて、国内外の医療に貢献しています。

1 Specialization in Glycoscience 専門分野は糖質科学

創業以来、糖質科学の重要性に着目し、医薬品等への応用研究を進めてきました。数々の研究実績を積み重ね、ニッチな領域での専門性を有する糖質科学のパイオニアとして、国内外の医療に貢献しています。

2 Technology related to GAG GAGに関する最先端の技術・創薬力

長年にわたる糖質科学領域の研究に基づいた、GAGの化合物ライブラリーや関連酵素群、また、それらを扱うための多岐にわたる技術を創薬に活かしています。製造面においても、抽出・精製・培養等といった独自のGAG関連技術・ノウハウを活用しています。

※ GAG:グリコサミノグリカン
複合糖質の構成成分のひとつ
(ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸等)

3 Unique Business Model 研究開発・製造に 特化したビジネスモデル

医薬品の販売部門を持たず、それぞれの製品領域で強みを持つ会社と提携し、製品を供給しています。これにより、経営資源を研究開発や製造に集中的に投じることが出来ます。また、売上高の25%~30%程度を研究開発費に充て、研究開発要員が全従業員の約40%(当社単体ベース)であることも、新製品開発を重視する姿勢の表れです。

糖質科学とは?

糖質科学とは、糖が鎖のようにつながった糖鎖や、糖鎖がタンパク質や脂質などと結合してできる複合糖質を研究する科学分野です。これまでの研究において、糖鎖がいのちの誕生から老化までの様々な生命現象に欠かせない細胞間の情報や物質の交換に深く関わっていることが明らかになり、多くの病気との関連性にも注目が集まっています。糖質科学の研究が進むことで新しい治療法や診断法の開発につながることが期待されています。

糖鎖の主な役割

- 1 生命の誕生(受精)**
精子が卵子と出会い受精するとき、糖鎖が関与しています。
- 2 血液型を決定**
ABO式の血液型は、赤血球表面の糖鎖の形によってその型が決まります。
- 3 からだの水分を保持**
水分が過剰に失われないように細胞を保護しています(ヒアルロン酸等)。
- 4 細胞の増殖を制御**
成長因子のなかには、糖鎖によって活性が調整されるものがあります。
- 5 からだを外敵から守る**
ウイルスなどに感染したときに、マクロファージ(白血球のひとつ)を刺激して免疫細胞を活性化します。

糖鎖と病気の関わり

- 1 ウイルスや菌の感染**
インフルエンザウイルスなどの病原体は、細胞表面の特定の糖鎖に結合してからだに侵入します。
- 2 がんの転移**
細胞ががん化すると、糖鎖の形が変わり、がんの増殖や転移の促進に関与します。
- 3 糖尿病**
糖鎖遺伝子の異常が原因のひとつであるといわれています。

<参考> 転移性の高いがん細胞では、正常時にはわずかしが発現していない巨大糖鎖の量が増えることが分かっています。

経営綱領

<モットー>

独創 公正 夢と情熱

<経営信条>

学問尊重の理念のもとに、糖質科学を基盤として有用で安全な製品を創造し、
広く世界に供給して人類の福祉に貢献する。

<行動指針>

- 心と情報の通い合う、個性を活かす明るい社風を確立する。
 - 産学協同を推進し、独創的で有用な製品を開発する。
 - 製品の安全性と最高度の品質を確保する。
 - 誠実な信頼関係のもとに、社会との連携を深める。
- これらを通じて、豊かな自然と心豊かな生活を守る健全な社業の発展に努力する。

モットーに込められた想い

独創

真理の探究を目指す学問の進歩には、一人ひとりの、また集団の独創が重要です。事業においても、真に独創的なものを応用展開することにより、優位な新製品、新技術、新用途を生み出すことができ、企業の健全で安定的な成長も期待できると考えます。

公正

企業の原点は、正道を歩むことにあります。広く世界に通用し、世界が認める公正の概念を常に念頭において、自らの行動を律することにより、社会に認められる企業として存在することができます。「独創」も「夢と情熱」も、この「公正」の上に展開されるべきものと考えます。

夢と情熱

高い志を持ち、理想をかかげその実現を目指していく、そこに個人も会社も成長していく源泉があると考えます。

- 生化学工業のあゆみ 05
- 価値創造プロセス 07
- 事業と製品 09
- トップメッセージ 11
- 中期経営計画 14
- 研究開発 17
- 生産 23
- 販売 25
- 信頼性保証 27
- 人材 29
- コーポレートガバナンス 31
- コンプライアンス・リスクマネジメント 41
- 社会貢献活動 43
- 主要財務指標の推移(連結) 45
- 業績の概況 47
- 財務・非財務ハイライト 49
- 海外子会社 50
- 企業情報 51
- 株式情報 52

《編集方針》

「生化学工業コーポレートレポート2021」は、財務情報とESG(Environmental「環境」、Social「社会」、Governance「企業統治」)に対する取り組みを報告する統合報告書として、当社の成長のあゆみ、価値創造プロセス、各部門の取り組みなどの非財務情報も併せて掲載しています。

この冊子により、当社の事業活動と提供価値をステークホルダーの皆さまにより深く理解していただくことを目指しています。

<対象読者>

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さま

<対象期間>

2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)について報告していますが、2022年3月期の活動についても一部記載しています。

《UDフォントについて》

当レポートは、多くの人に読みやすいよう工夫された書体「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」を使用しています。



生化学工業のあゆみ

生化学工業は、社名が示すとおり学問である「生化学」の研究に重点を置き、糖質科学の進歩、発展とともに歩み続けてきました。

1940s～

世界で初めて
コンドロイチン硫酸の
工業化に成功

1970s～

ヒアルロン酸を用いた
医療用医薬品の開発を実現

1990s～

ヒアルロン酸製剤の充実と
海外展開の拡大

2018～

糖質科学の最先端技術を
活かした製品の多様化
新たなステージへ

主要製品の歴史

事業体制の歴史

1950



医薬品製造業許可を取得
医薬品としてコンドロイチン硫酸
の製造販売開始

1960

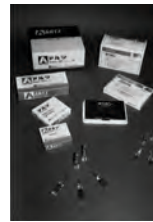
自社開発による糖関連研究用試薬
の製造販売を開始
※ 研究用試薬事業は2012年に廃止しました

1981

世界で初めてエンドトキシンの比色
定量用試薬を開発、製造販売を開始

1987

ヒアルロン酸を主成分とする世界初
の関節機能改善剤「アルツ」、国産初の
眼科手術補助剤「オペガン」発売
※ 関節機能改善剤「アルツ」は2022年3月
31日に薬価基準削除予定



1992

関節機能改善剤
「Artzal (アルツァール)」を
スウェーデンで発売
関節機能改善剤の海外展開を
本格的にスタート

1993

関節機能改善剤
「アルツディスポ」発売

1995

眼科手術補助剤「オペガンハイ」
(現 ヒアルロン酸Na眼粘弾剤1%
「生化学」) 発売



2001

関節機能改善剤
「SUPARTZ (スバルツ)」
(現「SUPARTZ FX (スバルツ
FX)」) を米国で発売



2007

内視鏡用粘膜下注入材
「ムコアップ」発売



2012

単回投与の関節機能改善剤
「Gel-One (ジェル・ワン)」を
米国で発売



2016

眼科手術補助剤
「シェルガン」発売



2018

腰椎椎間板ヘルニア治療剤
「ヘルニコア」発売



2019

単回投与の関節機能改善剤
「HyLink (ハイリンク)」を
イタリアで発売



2021

関節機能改善剤
「ジョイフル」発売



1947



興生水産株式会社 (現 生化学工業
株式会社) を設立
神奈川県横須賀市に久里浜事業
所 (現 久里浜工場) を開設

1949

水谷當稱 (元 生化学工業社長) が
世界初のコンドロイチン硫酸の工
業化を意図し、試作を開始

1960

東京都新宿区に東京研究室を
開設 ※ 1966年に東京研究所に改称

1962

社名を「生化学工業株式会社」に
変更

1968

東京都東大和市に東京研究所
(現 中央研究所) を移転



1975

茨城県高萩市に高萩工場を開設

1989

社団法人日本証券業協会の店頭
市場 (現 JASDAQ市場) に株式
を登録

1997

エンドトキシン測定用試薬の製造
販売会社「アソシエーツ オプ ケープ
コッド インク」(米国) を子会社化



1998

ISO13485 認証取得

2004

東京証券取引所市場第二部上場

2005

東京証券取引所市場第一部指定

2013

東京都東大和市にCMC研究所を
開設 (中央研究所と同敷地内)

2020

CDMO*事業を行う
「ダルトン ケミカル ラボラトリーズ
インク」(カナダ) を子会社化



* CDMO:
Contract Development and
Manufacturing Organization
製薬企業向け医薬品受託製造、開発
段階における治験薬製造及び製造条件
の最適化など、製造・開発面における包
括的なサービスを提供する事業

売上高
(百万円)



価値創造プロセス

生化学工業は、糖質科学に特化した独自の有用な医薬品や医療機器等を創製し広く世界に供給することで、社会的課題の解決に取り組み、自らの企業価値を高め、人類の福祉に貢献していきます。



生化学工業は、糖質科学のパイオニアとして長年培った技術や知見を活かした独創的な製品群を揃える医薬品事業に加え、エンドトキシン測定用試薬等を取り扱うLAL事業を展開しています。



LAL事業

医薬品や医療機器の製造プロセスにおける品質管理に使用されるエンドトキシン測定用試薬や、深在性真菌症の診断用途としてのグルカン測定体外診断用医薬品の製造・販売を行うLAL事業を国内外で展開しています。

エンドトキシンとは?

グラム陰性菌を構成する成分のひとつで、極めて微量で強い発熱活性を示す物質です。医薬品等への混入は重大な副作用の原因となる可能性があることから、医薬品や医療機器の製造においては規制に基づいた厳重な管理が必要となります。

グルカンとは?

(1→3)-β-D-グルカンとは、カビや酵母などに代表される真菌の細胞壁の構成成分です。血中のグルカン濃度を測定することで、深在性真菌感染症の補助診断、または抗真菌剤の治療効果の判定に広く用いられています。

エンドトキシン測定用試薬/機器

● [エンドスペシー] [トキシカラー] [PYROCHROME (パイロクロム)] 等

カプトガニの血球抽出成分 (LAL: Limulus Amebocyte Lysate) から作られたエンドトキシンを測定する試薬です。医薬品や医療機器の製造プロセスにおける品質管理や、人工透析に使用する透析液の水質管理等に使用されています。



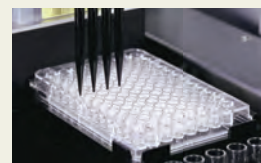
エンドトキシン測定用試薬

● [PyroSmart NextGen] (パイロスマート ネクストジェン)

カプトガニから採取した血液を使用せず、遺伝子組換え技術を用いて製造されたエンドトキシン測定用試薬です。2021年4月より海外子会社アソシエーツ オブ ケープ コッド インクにて、同年5月より国内にて販売を開始しました。

● エンドトキシン測定システム

エンドトキシン試験に関する様々なニーズに対応するために、全自動測定や多検体の同時測定等の測定システムを開発し、幅広い製品群をワンストップで提供するとともに、技術面でのサポートを行っています。



エンドトキシン自動測定システム

グルカン測定体外診断用医薬品

● [Fungitell (ファンジテル)]

深在性真菌感染症に対する治療法を選択と治療効果の判定に使用される体外診断用医薬品です。海外向けにアソシエーツ オブ ケープ コッド インクにて製造し、販売を行っています。

医薬品事業

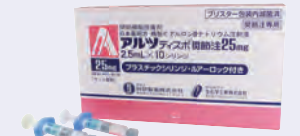
医薬品事業は、生化学工業のコアビジネスです。当社が製造・販売する医療用医薬品・医療機器は、複合糖質の構成成分のひとつであるグリコサミノグリカン (ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸等) を主成分とするものや、グリコサミノグリカンに働きかける酵素を活用したものです。独自の技術を活かした高品質な製品をグローバルに展開し、国内外の医療に貢献しています。

関節機能改善剤

● [アルツディスポ] [SUPARTZ FX (スパルツFX)] [VISCO-3 (ヴィスコ・スリー)]

「アルツディスポ」は、ヒアルロン酸を主成分とした世界初の関節機能改善剤「アルツ」※1のプレフィルドシリンジタイプ※2の複数回投与製剤です。関節腔内に直接注射することで、痛みや炎症を抑える効果が期待されます。国内はもとより、米国、アジア、欧州等の国々で承認を取得し、供給しています。

※1 2022年3月31日に薬価基準削除予定
※2 プレフィルドシリンジ製剤：あらかじめ薬液を注射器に充填したキット製品



アルツディスポ



SUPARTZ FX



ジョイフル



Gel-One

● [ジョイフル]

「ジョイフル」は、2021年5月に販売を開始したヒアルロン酸に抗炎症薬であるジクロフェナクを化学結合させた関節機能改善剤です。4週間に1回の投与で膝関節、股関節における変形性関節症の症状改善が期待されます。なお、変形性股関節症の適応をもつ関節機能改善剤は国内初となります。

● [Gel-One (ジェル・ワン)] [HyLink (ハイリンク)]

「ジェル・ワン」は、米国向けの単回投与の関節機能改善剤です。架橋ヒアルロン酸ゲルを主成分とし、3mLという少量の投与で長期の効果を発揮します。「ハイリンク」は、「ジェル・ワン」と同じく架橋ヒアルロン酸ゲルを主成分とした単回投与の関節機能改善剤で2019年3月にイタリア、2021年8月に台湾で販売を開始しました。

腰椎椎間板ヘルニア治療剤

● [ヘルニコア]

「ヘルニコア」は、コンドリナーゼを有効成分とする国内初の腰椎椎間板ヘルニア治療剤 (椎間板内酵素注入療法) です。椎間板内に直接注射することから、全身麻酔の必要がなく、手術療法と比較して患者の方々の身体的負担が小さいという特徴を有しています。



ヘルニコア

眼科手術補助剤

● [オベガン] [シェルガン] ヒアルロン酸Na眼粘弾剤1% [生化学]

「オベガン」ファミリーは、白内障手術の際にヒアルロン酸の粘弾性により眼内空間を保持して手術をサポートする製品群です。医療ニーズに応じて、容量や粘弾性が異なる7種類の製品をラインナップしています。



オベガンファミリー

内視鏡用粘膜下注入材

● [ムコアップ]

「ムコアップ」は、ヒアルロン酸の粘弾性を活かした内視鏡手術の補助材です。消化管 (食道・胃・大腸) の粘膜内腫瘍を内視鏡を用いて切除する際に、腫瘍部位の粘膜下層に注入し腫瘍部分を隆起させることで、手術をサポートします。



ムコアップ

医薬品原体

● ヒアルロン酸ナトリウム コンドロイチン硫酸ナトリウム

独自の抽出・精製技術をもとに、主に医薬品や化粧品等の原料となる高品質・高純度のヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸を製造・販売しています。



医薬品原体

CDMO

● CDMOサービス (受託開発・受託製造)

製薬企業向けの化学合成品や医薬品の受託製造及び製造工程開発などのサービスを提供しています。2020年3月にダルトンケミカル ラボラトリーズ インクを子会社化したことにより、新たに当社事業に加わりました。



各重点施策を着実に押し進め、 本中期経営計画の最終年度に向け、 一層の基盤強化を図ってまいります。

代表取締役社長 水谷 建

中期経営計画の位置づけ

当社は、2020年3月期より「当社が再び成長軌道を描くための基盤強化の期間」と位置づけた中期経営計画（P14参照）を策定し、「新たな収益の柱となる新薬開発の加速」「製品の市場拡大による収益基盤強化」「生産性向上のための改革」の3つの重点施策を掲げています。

当社を取り巻く事業環境は、国内での薬価制度抜本改革による主力品の薬価引き下げに加え、米国の変形性関節症市場における新規競合品の参入や企業間競争の激化など厳しい状況にあります。新薬開発においては、研究開発費の高騰や新薬シーズの枯渇といった業界全般の課題がある一方で、再生医療などの新規治療技術の出現、創薬モダリティの多様化が進んでいます。このような急速な変化に対応すべく、既存の枠組みにとらわれずスピード感をもって、各重点施策を押し進め、当社の成長を支える強固な収益基盤の構築に取り組んでいます。

中期経営計画の進捗状況

本中期経営計画の2年目にあたる2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症という不測の要素がありましたが、各重点施策において、一定の成果をあげることが出来ました。

1つ目の重点施策である「新たな収益の柱となる新薬開発の加速」においては、SI-613として開発を進めていた関節機能改善剤「ジョイクル」について、2021年3月に変形性関節症（膝関節、股関節）の効能又は効果で国内製造販売承認を取得し、同年5月に販売提携先である小野薬品工業株式会社を通じて販売を開始しました。また、2021年1月に間質性膀胱炎治療剤SI-722の米国における第I/II相臨床試験の被験者組み入れが完了し、主目的であった忍容性を確認したことから、次相試験開始に向けて検討を進めています。

2つ目の「製品の市場拡大による収益基盤強化」では、

変形性関節症治療剤SI-613について、エーザイ株式会社と2020年4月に締結した中国における共同開発及び販売提携に関する契約に加え、同年9月に同社と韓国における販売提携契約を締結いたしました。また、当社における長年の研究開発の成果に基づき製造された遺伝子組換えエンドトキシン測定用試薬「PyroSmart NextGen」(P09参照)を2021年4月に海外子会社アソシエーツ オブ ケープ コッド インクから発売したほか、5月には当社による国内販売を開始し、新たな市場拡大の一步を進めることができました。

3つ目にあげた「生産性向上のための改革」では、2020年3月に子会社化したダルトン ケミカル ラボラトリーズ インクへの製造移管が進展しています。今後も、当社が外部委託で製造している化学合成品の内製化や治験薬及び一部当社製品の同社への製造移管を順次進めることで、さらなる生産最適化・効率化を図ってまいります。また、リソースの価値最大化に向けた組織づくりのため、若年層の従業員を研究テーマリーダーや工場における各種責任者に任命し育成を図っているほか、組織改革を目的とした人事諸制度の全面改訂を進めており、本中期経営計画中に適用することを目指しています。

2022年3月期は、現在取り組んでいる中期経営計画の最終年度となります。次の中期経営計画へと繋がる基盤を固めるべく、先に掲げた3つの重点施策の取り組みを一層強化してまいります。

関節機能改善剤「ジョイクル」について

2021年5月に発売した「ジョイクル」については、本剤の投与後にショック、アナフィラキシーが複数報告されたことから、同年6月1日に医療関係者向けに安全性速報（ブルーレター）を発出いたしました。発売当初より添付文書の「重大な副作用」の項にてショック、アナフィラキシーに係る注意喚起を行っていましたが、安全性速報を発出することで、医療関係者の方々にさらなる周知を実施するとともに、適切な処方・処置を行っていただき患者の方々の安全を確保することを目的としたものです。

「ジョイクル」を投与された患者の方々にいて副作用報告が複数寄せられていることは、当社が最優先に取り組むべき課題と受け止めております。販売提携先である小野薬品工業株式会社と連携し、引き続き副作用報告等

の積極的な情報収集、安全性に関する情報提供に努めるとともに、早期の原因究明にも尽力してまいります。

また、米国、中国、韓国において開発中のSI-613の進展についても、国内での「ジョイクル」の状況や影響を精査しつつ、検討してまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響

2021年3月期は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業環境や就労環境が大きく変化しました。当社でも、新しい働き方に適応すべく、在宅勤務の導入やIT環境の整備等を押し進め、従業員やその家族の感染防止に努めつつ事業を継続する体制を整えております。なお、生産部門においては、従業員の安全性を最優先としながら、当社医薬品・医療機器の安定供給責任を全うするために生産を継続しています。

今後とも、製薬会社として社会的責任と安定供給責任を果たすために、速やかな情報収集と状況に応じた対応策を迅速に実施してまいります。

株主をはじめとした ステークホルダーの皆さまへのメッセージ

本中期経営計画の策定にあたり、当社が中長期的に目指す姿として「独創的な創薬により世界で存在価値のある企業」であることを決めました。糖質科学領域において長年培ってきた独自の知見やノウハウを活かした独創的な新薬を継続的に創出していくことが私たちの使命です。真に必要とされる新薬を、より広く、グローバルに患者の方々に提供し、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献することを通じて、製薬企業としての存在価値を高めていくことを目指します。

また、高い倫理感のもと誠実な企業活動の徹底、経営の透明性確保などのコーポレート・ガバナンスの強化に努めてまいります。

株主をはじめステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

急速に変化する事業環境に対応し

再び成長軌道を描くための基盤強化を目指して、中期経営計画を策定しました。
既存の枠組みにとらわれず、革新的な思考を持って重点施策に取り組みます。

中期経営計画スローガン

INNOVATIVE THINKING 革新的な思考をもって価値を創造する

《目指す姿》

独創的な創薬により世界で存在価値のある企業

独創性の追求

糖質科学領域における知見を独自の技術に活用し
「独創」的な新薬を「夢と情熱」を持って生み出していく

存在価値の向上

「公正」かつ誠実な企業活動のもと世界の人々の健康で心豊かな生活のために
真に求められる製品を継続的に提供していく

グローバル展開の加速

世界を見据えた研究開発や製品の新規市場開拓を促進し
収益最大化につなげる

当社ならではの独創的な新薬を継続的に生み出し
それらをより広く、グローバルに患者の方々に提供することを通じて
製薬企業としての存在価値を高めていきます。

【3つの重点施策】

I. 新たな収益の柱となる新薬開発の加速

II. 製品の市場拡大による収益基盤強化

III. 生産性向上のための改革

再び成長軌道を描くための基盤強化の期間

利益配分に関する基本方針

当社は、持続的な利益成長と企業価値の向上が、株主の皆さまとの共同の利益に資すると考えています。

株主の皆さまへの利益還元につきましては、重要な経営課題の一つとして認識し、業績に連動した配当を実施することを基本方針としています。また、今後の事業展開や総還元性向を勘案しながら、自己株式の取得を適宜検討してまいります。

また、収益基盤の強化と資本効率の向上を図るために、新たな価値創出に向けた研究開発や生産体制整備に対する事業投資のほか、将来の成長やシナジー効果が見込める戦略投資にも積極的に取り組んでまいります。

なお、現在取り組んでいる中期経営計画期間中におきましては、2020年3月期の配当金は1株当たり年間26円としたほか、2021年3月期の配当金は1株当たり年間24円とし、引き続き2022年3月期については、事業収益等を勘案のうえ、配当性向50%を目指し、継続した利益還元而努力してまいります。

また、2021年7月に取得株式20万株、取得価額2億2千1百万円で自己株式の取得を行いました。



株主還元

- ・配当金については、事業収益等を勘案のうえ、配当性向50%を目指す
- ・自己株式の取得を適宜検討

事業投資

新たな価値創出に向けた研究開発や生産設備等への効率的な投資を推進

戦略投資

将来の成長・シナジー効果が見込める機動的な戦略投資を検討

	'22.3期 配当予想(1株当たり)	'21.3期 実績(1株当たり)
中間配当金	15.00円 (うち特別配当金5.00円)	10.00円
期末配当金	15.00円 (うち特別配当金5.00円)	14.00円 (うち記念配当金4.00円)
年間配当金	30.00円 (うち特別配当金10.00円)	24.00円 (うち記念配当金4.00円)
配当性向	46.3%	31.8%

2022年3月期の配当予想につきましては、普通配当金20円(うち、中間配当金10円)に「ジョイクル」発売に際する特別配当金として10円(うち、中間配当金5円)を加え、年間配当金1株当たり30円(配当性向は46.3%)を予定しています。

中期経営計画の重点施策

再び成長軌道を描くための基盤強化の期間

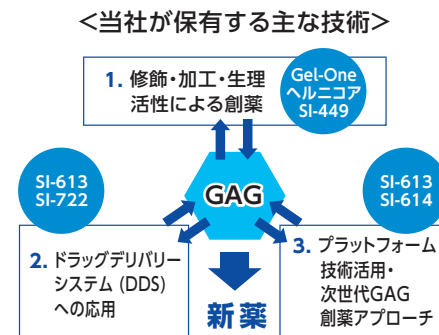
持続的な成長のために、3つの重点施策に取り組みます。

I. 新たな収益の柱となる新薬開発の加速

■ GAG*に関連する独自の基盤技術の強化・活用

当社が保有する独自の創薬技術を存分に活かし、創薬の可能性を高めます。

※ GAG:グリコサミノグリカン
 複合糖質の構成成分のひとつ(ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸等)



■ オープンイノベーション戦略による独創的な創薬の加速

当社保有技術に加え、他社の保有する親和性の高い技術を積極的に取り入れ、シナジーの最大化を図り、新薬開発のプロジェクト数を拡充させるとともに、スピードアップを図ります。

■ グローバル展開を視野に入れた開発パイプラインの着実な進展

変形性関節症治療剤SI-613の承認申請・上市を達成させ、新たな基幹製品として早期に育て上げます。また、間質性膀胱炎治療剤SI-722、癒着防止材SI-449の臨床試験におけるステージアップを目指します。腰椎椎間板ヘルニア治療剤SI-6603につきましては、第Ⅲ相臨床試験追加試験のスピードアップに注力し、米国上市に向けて全力で取り組みます。

II. 製品の市場拡大による収益基盤強化

■ 国内ヘルニコアの育薬

適正使用と安全性確保に向けた情報提供活動や市販後の安全性情報集積を最優先に進めつつ、関連学会と連携しながら当局と合意のうえで、使用可能となる医師・施設を段階的に拡げ、着実な市場浸透に努めます。また、疾患啓発活動により、患者の方々の腰椎椎間板ヘルニアに対する認知度向上を促進します。



■ 既存製品・開発品の多国展開の加速

既存製品及び開発品の新規市場開拓を急ぎ、製品価値を最大化させることで、中長期的な収益基盤の強化を図ります。また、導出地域の医療ニーズに合わせた製品改良や用途開発にも積極的に取り組みます。

■ 遺伝子組換え技術を活かしたエンドトキシン測定用試薬の世界展開

当社グループのLAL事業の海外展開を担う子会社アソシエーツ オブ ケープ コッド インクにおいて、今後の普及が予想される遺伝子組換えエンドトキシン測定用試薬の世界展開を図り、新たな収益基盤の確保につなげます。

III. 生産性向上のための改革

■ 各種コストの徹底的な低減

製造原価につきましては、既に立ち上げているプロジェクトにより、調達コストの見直しや生産最適化・効率化をさらに進め、製品の収益性確保につなげます。販管費につきましては、業務効率の向上と予断をもたないコスト削減を徹底するとともに、継続的な創薬活動を推進するために、優先度を見極めた研究開発費の効率的活用に取り組みます。

■ 収益モデルの多角化

これまでのビジネスモデルにとらわれず、新たな収益を生み出すためのスキームを精力的に検討していきます。

■ リソースの価値最大化に向けた組織づくり

事業環境の変化に柔軟に対応し、新しい価値を創造できる人材の育成と、個々のポテンシャルを最大限発揮できる組織改革を進めます。



2020年3月に子会社化した
 ダルトン ケミカル ラボラトリーズ インク

数値目標

	2019年3月期実績	2022年3月期目標
売上高	283億円	283億円
経常利益	28億円	45億円
SKK EBITDA*	46億円	50億円
海外売上比率	42.2%	50.0%

<前提条件>

- ① LAL事業を含めた海外売上高の拡大で国内薬価改定の影響をカバー
- ② 2020年3月期に実施した医薬品事業に係る固定資産の減損により減価償却費が減少
- ③ 研究開発費の対売上高比率: 25~30%
- ④ 営業外収益に各種受取ロイヤリティーを織り込む
- ⑤ 為替レート: 対米ドル105円

※ SKK EBITDA:

営業利益に減価償却費、受取ロイヤリティーを加えた当社独自の利益指標です。早期の収益基盤の強化を目標とした本中期経営計画の成果を反映する指標として適切であると判断し、数値目標に選定しています。